

第45回 北海道都市問題会議

人口減少社会におけるまちづくりのデザイン

～ ポスト・コロナ 田園回帰の社会へ ～

パネルディスカッション

美唄に暮らす喜びと誇りが 感じられるまちづくり

パネリスト

美唄市長 板東 知文

◎ 美唄市が抱える課題（20年後）

- ・ 人口減少 （人口 2万人 → 半減の 1 万人に）
- ・ 超高齢化 （高齢化率 43% → 53%に）
（75歳以上の後期高齢率も 24% → 34%に）
- ・ 未曾有の自然災害、感染症のパンデミック
- ・ 地域経済、財政規模、地域コミュニティの縮小



かつて経験したことの無い課題

◎ 課題解決に向けた対応

※人口拡大期の限りない拡大・成長を志向した時代から
本格的な人口減少・超高齢社会への構造的変化の時代へ

・成熟社会の真の豊かさの実現への取組

⇒自然と人との豊かなふれあいを取りもどし、地域社会
をより人間らしい生活の場として再生するという、
「本物が息づく地域づくり」が求められている。

こうした状況から長期的な展望に立った
地域づくりが必要

■ 新たな時代の目指すべきまちづくり

急速に進む少子高齢化や人口減少、さらには格差などの地域課題に的確に対応し、「美唄に暮らす喜びと誇り」という新たな時代の豊かさを創り上げるため、長期的な展望に立った地域づくりを進める。

今年度「第7期美唄市総合計画」がスタート
(令和3年から12年の10年計画)

◎ 総合計画において目指す都市像

ともに支え合い 分かち合う 田園文化創造都市 びばい

「美唄市まちづくり基本条例」に掲げる

「市民主体のまちづくり」「情報の共有」「協働のまちづくり」の
3つの基本原則に基づき、

どんなに人口減少や高齢化が進んでも、誰ひとり置き去りにしない、
「ともに支え合い 分かち合う 田園文化創造都市 びばい」を目指し、
「持続可能なまちづくり」に取り組んでいます。

田園文化創造都市とは

- ・本市の地域づくりの基幹的役割を担っていく農の営みは、人々が協働して自然に働きかけ、人間が生きていくために不可欠な食べものをつくり、暮らしを立てるという「人間生活の根源的な営み」であり、それは経済的、産業的なものとしての農業をはるかに超えて、すぐれて人間的、社会的、文化的、自然的な意味を持つものであるから、ここでは「田園文化」として位置づけます。

※「農業」は「agriculture」、その「culture：文化」の語源が耕すを意味するラテン語に由来していることから、「田園文化」とします。

本日のテーマ

「美唄に暮らす喜びと誇りが感じられるまちづくり」

◎第7期美唄市総合計画において目指す都市像

ともに支え合い 分かち合う 田園文化創造都市 びばい

都市像の実現に向けた「5つの挑戦」

- ①ともに支え合い、安心して暮らせるまちづくり
- ②地域資源を生かした「にぎわい」と「活力」あふれるまちづくり
- ③地域に根ざし、暮らしに学ぶまちづくり
- ④人と自然が共生した安全・安心のまちづくり
- ⑤市民が主役の誰もが活躍できるまちづくり

7

◎都市像を実現するための5つの挑戦

(1) ともに支え合い、安心して暮らせるまちづくり〔福祉・保健・医療〕

- ・地域での生活機能を支える福祉・保健・医療が一体となった施策を推進
- ・市民一人ひとりが健康で生きがいを持って、安心して暮らせる地域社会の形成

〈重点施策〉

- ①誰ひとり置き去りにしない、安心して暮らせる地域社会の形成
- ②健康で安心して暮らせる保健・医療環境の充実

(2) 地域資源を生かした「にぎわい」と「活力」あふれるまちづくり〔農業・食と観光・商工業・移住定住〕

- ・本市の魅力を広く情報発信し、多様な人材が活躍できる場の確保
- ・基幹産業である農業などの地域資源を生かした地元産業間の連携強化
- ・新産業やビジネスの創出などによる雇用の創出、移住定住、関係人口の創出・拡大

〈重点施策〉

- ①地域資源を生かした「にぎわい」づくり
- ②いのちを育む食と農の振興
- ③移住・定住の促進

(3) 地域に根ざし、暮らしに学ぶまちづくり〔子育て・教育・文化〕

- ・安心して子どもを生み育てられる環境の整備
- ・歴史や伝統文化を十分に活かした、子育てしやすいまちづくり
- ・豊かな人間性を育む生涯学習の環境整備・充実

〈重点施策〉

- ①安心して子育てできる環境の充実
- ②生きる力を育む教育と次代を担う人材育成
- ③文化・芸術を育む活動と生涯学習・スポーツの振興

8

◎都市像を実現するための5つの挑戦

(4) 人と自然が共生した安全・安心のまちづくり〔自然・環境・都市基盤・安全安心〕

- ・貴重な自然環境の保全と活用のバランスを保つ地域の魅力づくり
- ・市民の暮らしを支える都市基盤の整備や公共交通の維持・促進
- ・地域防災力の向上を図り、全ての市民が安全に安心して暮らせるまちづくり

〈重点施策〉

- ①豊かな自然環境の保全と共生
- ②快適な都市空間の形成
- ③安全・安心なまちづくり

(5) 市民が主役の誰もが活躍できるまちづくり〔協働・行政改革〕

- ・全ての市民が個々の能力を発揮し社会を支えていく必要があります。
- ・市民自らが地域活動、社会活動に参画することを目指します。

〈重点施策〉

- ①性別や年齢、障がいに関係なく、誰もが活躍できる社会の形成
- ②暮らしに根ざした行財政改革の推進

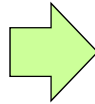
広井教授が提唱する「生命関連産業」の分野と美唄市の施策体系

地域づくりのテーマ	美唄市の施策体系
健康・医療	・地域包括ケアシステムの確立（プライマリ・ケア、在宅医療の拡充等） ・「治す医療」（病院完結型）から「治し支える医療」（地域完結型）へ ・新型コロナウイルス感染症対策
環境 (再生可能エネルギーを含む)	・ホワイトデータセンター構想（デジタル社会） ・雪冷熱エネルギーを活用した新産業の創出（食を中心とした産業クラスター） ・宮島沼の保全と活用 ・脱炭素社会（カーボンニュートラル）への取組（地域再生エネルギーの活用）
生活・福祉	・地域コミュニティの再構築 ・全庁的な協力体制のもと、集落支援員制度の活用 ・高齢者の総合的な生活支援（地域包括生活支援、住民主体の支え合い）
農業	・食と農の地域づくり（スマート農業×農業生産基盤整備） ・環境に配慮した持続可能な農業（安全・安心で良質な農産物、雪蔵工房） ・ふるさと納税返礼品　・地産地消　・自給自足
文化	・郷土史料館を拠点とした「地域学・美唄学」の取組 →美唄市に暮らす「喜びと誇り」を育む ・教育：地域の担い手を育む→グリーン・ルネッサンス推進事業、食農教育

本市の取組の具体例

1 「ふるさと納税」の取組

・ 令和元年度の寄附金額は
→ 99百万円



・ 令和2年度の寄附金額は
→ 10億8千万円(前年比約11倍！)

- ・ 令和2年度 → 返礼品の充実とポータルサイトの拡充
- ・ 寄附者の約9割が道外の方、そのうちの半数が首都圏
- ・ 返礼品は、約7割がお米を中心とした農産品

- ・ 今後は、寄附金の使途を明確にすることなどでリピーター増加につなげていく。
- ・ ふるさと納税から「ふるさと美唄応援団」など市外からの「新たな担い手」を育むことで、関係人口、交流人口を拡大し、地域力の向上、移住・定住などにつなげていく。

11



12

2 「美唄ブラックダイヤモンドズ」の取組

○美唄ブラックダイヤモンドズ

- 2019年11月13日 美唄ブラックダイヤモンドズ設立
- 2020年 5月30日 2020シーズン開幕
- 2020年 9月26日 北海道ベースボールリーグ初代チャンピオン
- 2021年 3月16日 N P O 法人美唄ブラックダイヤモンドズ設立

- ・夢に挑戦する若者が、全国から美唄に集い、情報発信や交流活動に取り組む
- ・選手は、午前中は地元企業で従業員として働き、午後からは野球に打ち込む
- ・市との協定によりボランティア活動や地域活性化に積極的に取り組んでいる
- ・地域密着型野球チームとして、市民に「美唄に暮らす喜びと誇り」をもたらす
- ・スポーツを契機とした地域ビジネスの活性化に大きく寄与するものとする

13

3 「地域学・美唄学」の取組

○美唄市：令和2年度に沼貝村から130年、市制施行70年を契機とした取組み

- ・郷土の歴史・文化や貴重な歴史遺産の適切な保存・活用→次世代につなげる
 - ・市郷土史料館を＜文化拠点＞として、地域の人材や文化資本の蓄積を目指す
- 地域に根ざし、暮らしに学ぶ、市民の・市民による地域学・美唄学の確立



- ・地域社会の維持に向けた「シビックプライド」の形成に努める
- ・交流人口、関係人口の拡大に向けた「シビックプライド」の発信に努める
- ・地域が培ってきた生きる力「美唄に暮らす喜びと誇り」を次世代へ伝える

14

4 「美唄らしい特色ある教育」の取組

○本市の特色ある食農教育

- ・地産地消を推進した安全安心の学校給食の提供、ふるさと給食の充実
→「生きた教材」「食と農の関連性」、地域の特性を生かした食農教育の推進
- ・「グリーンルネサンス推進事業」の取組



※「グリーンルネサンス推進事業」

- ・農業の実体験活動等を通じて、
農業や食の大切さを学び、
生きる力やふるさとを愛する心を育む



グリーンルネサンス事業 稲刈の様子

15

今後の抱負とメッセージ

「限りない拡大・成長」を求めた時代から、地域の暮らしに
根ざした豊かさを実現する「本物が息づく地域づくり」へ

- ・都市集中型社会から持続可能な「地方分散型社会」への転換
- ・若い世代のローカル志向と生命の時代。田園回帰はこの延長上の現象
- ・「人、モノ、カネ」が地域内で循環するコミュニティ経済の実現
- ・かけがえのない経験と知恵を生かして、本当の豊かさや幸福を求める時代



美唄市、北海道は「定常型社会のあり方」を
先導的に実現し、発信していくポジションにある

16